

## 「行革甲子園 2018」エントリーシート

### 【取組の内容】

#### 1 取組事例名

サイクルツーリズムによる自治体間交流

#### 2 取組期間

平成 29 年度～（継続中）

#### 3 取組概要

今治市と自転車を通じたまちづくり交流協定を締結し、サイクルツーリズム推進のノウハウを学ぶとともに平成 30 年度からは自治体連携拡大（名護市、今治市、尾道市、守山市）によるサイクルツーリズム共同プロモーション事業に取り組んでいる。

#### 4 背景・目的

本市では平成 23 年掲げた「循環型環境都市の形成」施策の一環として「自転車ネットワーク基盤整備計画」を策定し通勤、通学、買物など住民が生活の中で自転車を利用できるよう自転車指導レーンを整備し自転車利用の促進に取り組んでいる。また、観光客の移動手段として手軽に利用できるレンタサイクルを普及するためレンタサイクル導入助成や市職員の健康増進と環境負荷軽減を目的に県内で初めて自転車通勤手当を導入するなど自転車のまちづくりに取り組んで来た。

一方、新たな旅行商品としてサイクルツーリズムを推進するに当たり自転車ロードレース大会「ツール・ド・おきなわ」開催が中心的な役割を担ってきたが、競技色が強く一般観光客層への普及にまで繋がっていないなどの課題があった。

サイクルツーリズムの先進地である今治市を視察したことをきっかけに、後同市と自転車を通じたまちづくり交流協定を締結し、サイクルツーリズム推進のノウハウを学ぶとともに平成 30 年度からは自治体連携拡大（名護市、今治市、尾道市、守山市）によるサイクルツーリズム共同プロモーション事業へと発展した。

## 5 取組の具体的内容

### 市街地内自転車指導レーンの整備

- 平成24年度より、まちなかネットワーク優先路線において道路空間の再配分を行い、路肩等を活用し、平成29年度までに**自転車指導レーン**の整備を約9.2km（**環状型整備、矢羽根型整備**）実施、平成30年度以降、約10kmを予定
- また、役所内や公共機関において**駐輪場の整備**も推進している

（環状整備）



（矢羽根型整備）



### 瀬戸内しまなみ海道視察報告会

- サイクリストの聖地と称されている「瀬戸内しまなみ海道」の視察を平成28年7月に実施
- 先進地の広島県、愛媛県、今治市の行政機関、瀬戸内フランド化を推進している「せとうち観光推進機構」等にヒアリングを行い、報告会を開催し、「**羽地内海周遊サイクリングコース**」を提案



### 「健康長寿おきなわプラットフォーム形成事業」 （沖縄県文化観光スポーツ部）のモデル事業として認定

北照広域での意見交換会の実施

平成28年9月30日 場所：本郷市役所

【参加者】

- 沖縄県文化観光スポーツ部
- 本郷市（企画課、建設課、羽地支所、観光地支所）
- 本郷市観光協会
- 今帰仁村、今帰仁村観光協会
- 沖縄観光コンベンションビューロー
- ワールド・おきなわ協会



＜期待される効果＞

- 旅行会社のツアー商品への期待
- 広域連携を推進する良いチャンス
- スポーツの環境整備促進へ

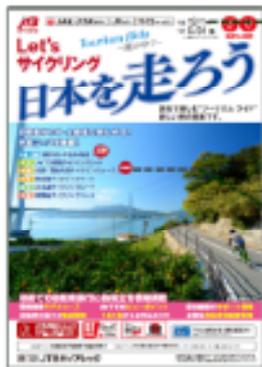
＜課題視される要素＞

- 現状の道路の整備状況への不安
- 地元の受け入れ態勢が整うか
- パンフレット用の素材が集められるか

### 今治市との自転車を通じたまちづくり 交流協定締結式（平成29年5月19日）



### 本島初の自転車旅行商品として発売



【限定】

平成28年12月1日～29年5月31日

- 本郷市を中心とした情報収集の体制づくりと、コース視察として現地調査を行う
- 「意見交換会」「モニターツアー」の事業をサイクリング商品に反映
- 本島の自転車の旅行商品はコース、東端のJTBコースに比べ本島の沖縄は上位と言える

### VJ地方連携事業：サイクリング・ゴールデンルートPR事業

事業名称：サイクリング・ゴールデンルートPR事業（平成30年度）

- 事業概要：観光庁の訪日外国人の誘致促進に関する補助事業VJ（ビジット・ジャパン）地方連携事業を活用し、今治市（愛媛県）、尾道市（広島県）、守山市（滋賀県）、本郷市（沖縄県）で各市にあるサイクリングコースの共同プロモーション事業を実施する。
- 事業内容：事業内容：サイクリング・ゴールデンルートPR動画を制作し、SNS等ネット上で放映する。



- 通勤、通学、買物など住民が生活の中で自転車を利用できるよう自転車指導レーンを整備
- サイクルツーリズムの先進地である今治市を視察
- 今治市と自転車を通じたまちづくり交流協定を締結
- 沖縄県の「健康長寿おきなわプラットフォーム形成事業」のサイクリングモデルコースに選定される
- JTBガイアレックの沖縄本島では初の自転車旅行商品として販売される
- 自治体連携（本郷市、今治市、尾道市、守山市）によるサイクルツーリズム共同プロモーション事業

## 6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- ・しまなみ海道サイクリングコースとして国内外で知名度の高いと今治市と協定を結び自転車まちづくりを進める体制を作った
- ・先進自治体からノウハウを学ぶとともに相互連携による共同事業を遂行できるようになった。

## 7 取組の効果・費用

- ・自治体連携により、お互いの持つノウハウを共有化する事により短期間で事業効果を得ることができる。
- ・複数自治体で予算を支出する事により予算規模が増えスケールメリットを活かした事業実施が可能となる。

## 8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・サイクルツーリズムを推進する中で、サイクリングコースを名護市内だけでなく沖縄県北部地域一円まで自転車指導レーンを拡大する「やんばるサイクリングロード整備」構想について国道事務所、沖縄県、近隣町村と調整を進めているが連携面ではまだ課題があるが、気軽にサイクリングできる空間の創出を目指して環境整備に取り組んでいきたい。

## 9 今後の予定・構想

3つのサイクリングコース、名護市（羽地内海）、今治市・尾道市（しまなみ海道）、守山市（琵琶湖）を「サイクリング・ゴールデンルート」としてブランド化し認知度を高めより強力にサイクルツーリズムを推進し国内外からの観光客誘致を図っていく。また、今後は森山市とも自転車まちづくり協定を締結し強固な連携体制を構築したい。

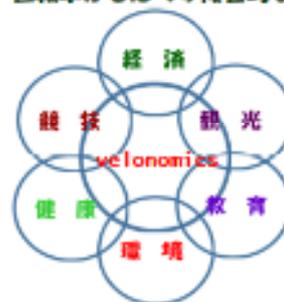
## 10 他団体へのアドバイス

同じ方向を目指している自治体同士で連携・交流する事で業務の効率化や共同事業の実施など相乗効果が生まれることがあるのではないのでしょうか。

自転車のまちづくりについては経済、観光、教育、環境、健康など複合的な経済効果をもたらすことができると考えています。

### velonomics

定義：自転車をもたらす複合的な経済効果



## 1 1 取組について記載したホームページ

総務省地域の元気創造プラットフォーム公式サイト

<https://www.chiikinogennki.soumu.go.jp/jokyo/okinawa/47209/2017-0303-1459-12.html>